

福井県嶺北地域のダム湖におけるカラスガイ (*Cristaria plicata*) の記録

小木曾竜司・小寺 正悟

Record of *Cristaria plicata* (Bivalvia: Unionidae) in a Dam Lake of the Reihoku Region,
Fukui Prefecture, Japan

Ryuji Ogiso and Shogo Kodera

(要旨) 2024年3月24日、福井県嶺北地方に位置するダム湖において、大型淡水二枚貝であるカラスガイ *Cristaria plicata* の生体1個体を採集した。本種は福井県においてはかつて三方湖、菅湖、水月湖に分布していたが、県内における現存個体の記録は極めて稀である。本種は福井県内では1985年以降確認記録がなく、絶滅したと考えられてきたが、本報告は、同県における本種のおよそ40年ぶりの現生個体記録であり、福井市における現生個体の確認は初の記録である。今後の分布再評価および保全に資するものと考えられる。採集個体は福井市自然史博物館に寄贈した。

キーワード：カラスガイ、福井県、福井市、絶滅危惧種、淡水二枚貝

はじめに

カラスガイ *Cristaria plicata* はイシガイ目イシガイ科に属する大型淡水二枚貝であり、殻長は最大で30 cmに達する。日本国内では北海道から九州にかけての平野部の湖沼や河川下流域に分布するが、全国的に生息数は減少傾向にあり、環境省レッドリストでは準絶滅危惧 (NT)、福井県レッドデータブックでは県域絶滅危惧I類に指定されている (福井県安全環境部自然環境課, 2016)。

福井県ではかつて三方湖、菅湖、水月湖に生息していたが、1985年以降は確認記録がなく、絶滅したと考えられてきた (福井県県民生活部自然保護課, 1998)。また、かつての福井市内における分布については、福井市立郷土博物館所蔵の標本目録において、市内産の本種の記録が残されている (窪田, 1962)。

本報告では、2024年に福井県嶺北地域のダム湖で採集された本種の記録を、その繁殖の知見とともに記述する。

採集記録

- ・採集日：2024年3月24日
- ・採集地：福井県嶺北地域のダム湖 (希少種の保全・乱獲防止の観点から、詳細な場所地点は伏せる)
- ・採集者：小寺正悟・小木曾竜司
- ・個体の状態と計測値：殻長：328 mm (一般的な最大サイズ30 cmを超える、極めて貴重な大型個体)、外殻に磨耗はあるものの良好な閉殻状態を保っていた。推定年齢は30年以上とみられる。
- ・殻重量：1240 g / 身重量：1020 g・生息環境：採集

場所は静穏な水域であり、底質は中～細粒の泥質を主体とし、若干の砂を含む。水深は約30 cm、岸近くの水草帯の縁辺部にて採集された。周辺には同様の大きさの生きている個体や死骸を複数確認した (図1)。



図1 採集したカラスガイ *Cristaria plicata* の個体とその死骸の貝殻



図2 様々な大きさのカラスガイ *Cristaria plicata*

グロキディウム幼生

福井市自然史博物館における本個体の解剖処理の際、外套腔内から複数のグロキディウム幼生が確認された(図3)。これにより、本個体が産卵期に近い成熟個体であった可能性が示唆される。採集地点周辺ではコイ科魚類(コイ *Cyprinus carpio* を含む)も実際に生息していることを確認しており、今回解剖時に検出されたグロキディウム幼生の存在と合わせて、これらの事実から、当該地域において本種が現在進行形で繁殖活動を行っていることが強く示唆される。

これは本種が当地域で繁殖可能な状態にあることを示す重要な所見である。



図3 解剖時に確認されたカラスガイ *Cristaria plicata* のグロキディウム幼生(福井市自然史博物館, 2024から引用)

考察

福井県においては、1985年を最後にカラスガイ *Cristaria plicata* の記録はなく、本報告はおよそ40年ぶりの現生個体の確認となる。今回の発見により、県内におけるカラスガイ *Cristaria plicata* の絶滅が否定され、局地的ながら生息が継続している可能性が示唆される。また、福井市内におけるカラスガイ *Cristaria plicata* の現生個体の確認は今回が初めての記録であり、学術的にも重要な発見といえる。

本種は3~7月に産卵し、グロキディウム幼生が魚類の鰭や鰓に寄生して発育する(福井県安全環境部自然環境課編, 2016)。したがって、今回の生息地には宿主魚となる種の存在も示唆される。特に、ダム湖という環境が「避難所(リフugia)」として機能した可能性がある。ダム湖の底質の安定性、水質の安定、および人為的な攪乱の少なさが、30年を超える長期生存と繁殖を可能にしたと考えられる。

今後、本種の分布調査および個体数把握を進めるとともに、生息環境の保全が強く望まれる。

おわりに

このカラスガイ *Cristaria plicata* を発見したのは、2024年3月下旬のまだ肌寒い早春であった。自然観察中に偶然見つけた大きな貝を詳しく調べていくうちに、その希少性を知り、より多くの人に価値を共有したいと考えるようになった。福井市自然史博物館に寄贈したことで、この個体が学術的記録として後世に残ることを嬉しく思う。本報告が自然への関心を高める一助となれば幸いである。

謝辞

本個体を受け入れ、同定、分類確認および保管にご尽力いただいた福井市自然史博物館の関係各位、元福井市自然史博物館・藤野氏に深く感謝申し上げます。

引用文献

福井県安全環境部自然環境課編, 2016. 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物. 福井県, 536p+41pls. .

福井県県民生活部自然保護課, 1998, 福井県の陸水生物. 福井県, 203p. 窪田彦左衛門, 1962, 福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録. 福井市立郷土博物館, 242p.

福井市自然史博物館, 2024, カラスガイの幼生. <https://www.youtube.com/watch?v=abIPxCWBF14>. 参照日2025年8月5日